

- 1 国民と自衛隊とのかけ橋として相互理解を深化
- 2 我が国の平和と安全に寄与
  - ・防衛意識の普及高揚
  - ・国の防衛及び防災施策、慰霊顕彰事業
  - ・地域社会の健全な発展に貢献
- 3 自衛隊退職者等の福祉を増進

# 公益社団法人 隊友会

## 横須賀支部だより

### 巻頭言―年頭のご挨拶

支部長 濱田 暢喜



支部会員各位及び読者の皆さん  
新年あけましておめでと〜うござい  
ます

今年も当支部の活動に対する  
皆様のご理解とご支援を賜ります  
よう、よろしくお願ひいたします。

さて、昨年はロシアのウクライ  
ナ侵攻、北朝鮮による各種ミサイ  
ルの頻繁な発射、我が国E2C内への  
中国弾道ミサイルの着弾水等、安  
全保障上の懸念が深刻さを増す  
事態が相次ぎました。国内では、  
安倍元首相の銃撃による死亡事件  
や知床観光船沈没事故といった衝  
撃的なことが起きましたが、国際  
観艦式の挙行、サッカーW杯での日  
本チームの活躍やメジャーリーグ  
大谷選手とヤクルト村上選手の記  
録更新など感動的なことも数多  
くありました。

特に、昨年末には防衛力の抜本  
的な強化と防衛費の大幅な増額  
や安保関連3文書の改定の行方  
には、皆様も大きな関心をお寄せ  
されたことと思います。

反撃能力を保持するため敵基  
地攻撃が可能な装備を導入する  
ことはこれまでの方針の大転換で  
あり、また増額される防衛費の財  
源の内容も唐突だとして、いずれ  
も説明不十分との論議を呼びまし  
た。個人的には、それらは至極当  
然のように思えますが、今後これ  
が自衛隊の悪のりといった無効効  
くような物議を醸すことのないよ  
う願うものです。

このような議論の中で、特に違  
和感を感じたものがありました。

それはまず、「防衛費は消耗  
な性格を持つ」だから「国債発行の  
対象にするのは適当ではない」とい  
う従来の考えを転換したこと自体  
は良かったのですが、この「消耗」と  
いう言葉に、自衛隊は使用し尽く  
しあとに何も残さない、恩恵も何  
も創造しない存在だというイメー  
ジを連想させました。かつて閣僚  
が「暴力装置でもある自衛隊」と  
発言をしたこともありましたが、

これら表現はいずれも自衛隊  
は軍隊、という本来的な発想から  
のみで表現しているものと思われ  
ます。まったくの誤りとは思いませ  
ませんが、自衛隊をある一面だけ  
見るのではなく、軍事的な組織の  
役割の多様性、特に平時の自衛隊  
の活動などの側面からもその姿を  
捉えていただき、消耗的なところ  
と、そうでないところを見極めて  
ほしいものと考えます。

次に、同じく防衛費増額に伴

う増税に関連し、首相が自民党役  
員会で「今を生きる国民が自らの  
責任として対応すべきもの」と  
発言したとして「上から目線」「責  
任転嫁」だと強い批判が出たこと  
に対し、実際は「今を生きる我々  
が未来を生きる世代に責任を果  
たす」が発言内容だと訂正したと  
いう経緯についてです。批判した側  
批判に過剰に反応した側、双方に  
違和感を覚えました。

国家の舵取りを担い自衛隊の  
最高指揮官である首相が「国の防  
衛は国民の責任」だと述べたこと  
がそんなに不適切なのでしょうか。

ケネディ大統領が1961年の  
就任演説で、国民に自己利益を超  
えて国のために働くよう促し、「あ  
なたの国があなたのために何がで  
きるかを問うのではなく、あなた  
があなたの国に何ができるのかを  
問うてほしい」と述べたことは名演  
説として有名ですね。このように  
当たり前のことを堂々と主張でき  
る国であってほしいものです。

新年早々もやもやした内容と  
なり恐縮ですが、今年も卯年、皆  
様にとつて一層飛躍の年になりま  
すよう祈念申し上げます。年頭のご  
挨拶にさせていただきます。



### 引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

## 防衛省団体扱自動車保険・防衛省団体扱火災保険

- 1 ○Bの皆さま向けのサービスをご用意しています。見守りサービス、防災アラートサービス、電車を運行不能にさせた場合の損害賠償、家具移動、電球交換サービス
- 2 一般に比べ最大約 19% (自動車保険)、約 15% (火災保険) の割引です。
- 3 ○Bの皆さまにご加入いただけます。

## 弘済企業株式会社

その他、集団扱いがん保険も取り扱いしています。

詳しくは、右記の保険常駐員にご相談下さい。

海自横須賀：山田 046-822-3500(内線 2317) 海自船越：柴田 046-861-8281(内線 4863)  
陸自武山：荒木 046-856-1291(内線 571) 陸自久里浜：丸山 046-841-3300(内線 328)

横須賀支部と関係する機関・  
部隊の長からのご挨拶

防衛大学校長

久保 文明 様



新年明けましておめでとうございます。旧年中は防衛大学校が大変お世話になり、誠にありがとうございます。本年もまた、何卒宜しくお願い申し上げます。

一昨年以来のコロナ禍の中で、皆様それぞれに厳しい日常をお過ごしのことと拝察いたします。昨年防大は創立70周年を迎え、11月には無事に開校70周年記念式典を挙行いたしました。

神奈川県隊友会横須賀支部は永年にわたり、国民と自衛隊を繋ぐかけ橋としてきわめて有意義な活動を展開し、防衛省・自衛隊の発展に多大な貢献を果たされてきました。横須賀走水の小原台に位置する防衛大学校も、永年にわたり、地元の隊友会横須賀支部に支えられてここまで成長するにいたりました。防大のさらなる進歩のためには、今後とも隊友会のご支援が不可欠ですので、重ねてよろしくお願いいたします。

防大のさらなる進歩のためには、今後とも隊友会のご支援が不可欠ですので、重ねてよろしくお願い致します。

横須賀地方総監

海将 乾 悦久 様



隊友会横須賀支部のみなさま、新年あけましておめでとうございます。健康やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、各種行事、家族支援等に多くの温かいご支援、ご協力を賜りましたことに、改めて御礼申し上げます。

昨年は、海上自衛隊及び横須賀地方隊創設から70周年という節目の年を迎え、改めて初心に立ち返り、皆様の安心安全のためにまい進する決意を新たにしました。また、20年ぶりとなる国際観艦式を実施し、12か国の海軍との友好・親善を図るとともに、海上自衛隊の威容を国内外に示すことができました。海上自衛隊にとって大きな1年となりました。

本年は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況に注意しながらではありますが、各種行事をコロナ禍前と同様に実施できるよう尽力して参りますので、変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

結びに、隊友会横須賀支部の益々の発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

陸上自衛隊通信学校長  
兼ねて久里浜駐屯地司令

陸将補 濱崎 芳夫 様



新年あけましておめでとうございます。神奈川県隊友会横須賀支部の皆様におかれましては新たな年を迎えられ益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より陸上自衛隊久里浜駐屯地に対し多大なご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年のロシアによるウクライナ侵略により我が国を含む国際社会の安全保障環境は根本的に変化いたしました。そしてその戦争においてはサイバーや宇宙、電磁波といった新たな領域での戦いが展開されています。このためサイバーや電磁波の教育・研究を担う通信学校や陸自骨幹システム通信網を補完する中央野外通信群等の所在する久里浜駐屯地の重要性は益々増大していくものと思われまます。特にサイバーに関しては、今後強化されていく自衛隊のサイバー能力を担う優秀な人材の教育を牽引していく役割を果たしていかなければなりません。このような役割を果たしていくため、引き続き隊友会横須賀支部の皆様方のご支援・ご協力を得つつ隊員一丸となって精進して参る所存です。今年も久里浜駐屯地へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。神奈川県隊友会横須賀支部の皆様におかれましては新たな年を迎えられ益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より陸上自衛隊久里浜駐屯地に対し多大なご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

横須賀市長

上地 克明 様



令和5年の新春を迎え、謹んで賀詞を申し上げます。

昨年は、海上自衛隊創立70周年を記念し、50年振りとなる国際観艦式が挙行されました。これに合わせたフリードウィークの期間には、横須賀パレードや寄港した艦艇の一般公開などにおいて、隊友会の皆様には様々なお力添えを賜りました。改めまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、日頃より皆様には、市民と自衛隊との架け橋として、自衛隊の多岐にわたる活動を力強く支えていただいております。皆様のお支えは、隊員の士気高揚に加え、市民と自衛隊との相互理解をより一層深めるものであり、大変心強く感じております。

横須賀市は、陸海空の三自衛隊の施設が揃う全国でも数少ない自治体であり、長い歴史を自衛隊とともに歩んで参りました。今後も自衛隊を精一杯応援し、ともに更なる発展を図って参る所存でありますので、隊友会の皆様には、引き続きのお力添えを頂戴できましたら幸甚です。

結びに、隊友会横須賀支部の更なる

ご発展と、皆様にとりまして新年が幸多い年となりますことを心よりお祈りいたします。

鎌倉市長

松尾 崇様



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

神奈川県隊友会横須賀支部の皆様におかれましては、日頃から防衛意識の普及と高揚、地域社会の健全な発展に多大なご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、災害が激甚化、頻発化する中、昨年は幸いにも県内や本市に大きな被害を及ぼす災害は発生しませんでした。

一方、ロシアによるウクライナ侵略、北朝鮮による異例のペースでのミサイル発射、中国船舶による尖閣諸島への度重なる接近など、我が国を取り巻く安全保障環境は益々不安定な状況となっております。

また、国内ではコロナ禍が続き、更に安定していた物価も高騰するなど、従来当たり前と考えていたことが、当たり前ではなくなりました。

このような時代の中にあっても、本市は今後も国や県と手を携えながら、市民生活の基礎となる「安全で安心」なまちづくりに向け邁進する所存です。

皆様におかれましては、引き続き温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、神奈川県隊友会横須賀支部の益々のご発展と皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

逗子市長

桐ヶ谷 覚様



明けましておめでとうございます。

神奈川県隊友会横須賀支部の皆様におかれましては、国民と自衛隊のかけ橋として地域生活の安全に多大なご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界的な脅威である新型コロナウイルス感染症については、やや回復の兆しが見えつつも、現在も新規の感染者が報告され、いまだ収束には至っておりません。今年もしっかり対応をまいります。

さて、昨年9月の台風では幸い本市に大きな被害がありませんでしたが、被害の大きかった宮崎県や静岡県では派遣要請を受けた自衛官の皆様が、土気高く災害派遣の任務にあたる頼もしい姿を報道で拝見しました。

本市も災害に備え公助の役割を最大限果たす準備をしておりますが、特に大規模な災害の初期期の情報収集においては、災害対応のノウハウを持つ隊友

会の方々との連携が欠かせません。今後も隊友会及び自衛隊の方々とは日頃から顔の見える関係を維持しつつ、更なる連携体制を強化して災害への備えを高めていく所存ですので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

葉山町長

山梨 崇仁様



新年明けましておめでとうございます。日頃より防衛意識の啓発ならびに自衛隊活動へのご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。

昨年は町村では初の「ビッグレスキューかながわ」が、年越しに開催することができ、葉山町には様々な関係団体が集まりました。自衛隊や在日米海軍も主体的に訓練を行っていただき、顔の見える関係構築を図ることができ、防災力向上の機会となりました。

また、近隣諸外国では、ロシアのウクライナ侵攻や、北朝鮮の挑発的かつ危険

なミサイルの乱発など、強い緊張が続いております。自治体でできることに限りはありますが、これからは隊友会、自衛隊、防衛関連団体の皆様と、訓練を通じた連携を図り、務めを果たして参ります。

本年も変わらず日本と世界の平和、人々の穏やかな暮らしが守られることを目指し、共に頑張つてまいります。

皆様とご家族皆様が無事健康で幸せに過ごされることを心よりご祈念申し上げます。



あんしんを羽ばたく力に—京急グループ

# 京急メモリアル

もしもの時は、まずご一報を！ 24時間受付  
安心と信頼を 自信をもってご提供します

## 久里浜斎場

京急久里浜駅徒歩1分

0120-277-299

(経済産業大臣認可全葬連加盟)

KEIKYU  
京急グループ

新年あけましておめでとうございます  
国会議員会員からのご挨拶



衆議院議員  
山本ともひろ様



衆議院議員  
古屋 範子様



衆議院議員  
小泉進次郎様



参議院議員  
三原じゅん子様



参議院議員  
島村 大様



衆議院議員  
中西 健治様



参議院議員  
三浦のぶひろ様



参議院議員  
佐々木さやか様

豊かな暮らしのお手伝い



スーパーマーケット エイビー  
**ave**  
株式会社 エイヴイ

《かなしん よろず相談承り処》に  
ご相談ください。

かなしん よろず相談承り処は、かながわ信用金庫が  
運営する「なんでもご相談窓口」です。  
金融商品以外のご相談もちろんOK!!  
ぜひお気軽にご利用ください。

かなしん よろず相談承り処

場 所：横浜岡市大塚町2丁目21番地（三亞ビル商店街内）

営業時間：10：00～19：00（12月31日、1月1、2、3日を除く）

フリーダイヤル：0120-0468-01 神奈川県内以外ご利用いただけます。（受付時間 10：00～19：00）



かながわ信用金庫  
**かなしん**

新年あけましておめでとうございます  
 県・市・町会議員会員からのご挨拶

神奈川県議員

牧島 功様



神奈川県議員

亀井 貴嗣様



横須賀市議会議長

大野 忠之様



横須賀市議会議員

田中 洋二郎様



横須賀市議会議員

工藤 昭四郎様



鎌倉市議会議員

志田 一宏様



逗子市議会議員

田幡 智子様



葉山町議会議員

鈴木 道子様



街にいい風 あなたにいい風

SHONAN

街にいい風

湘南しんきん

湘南しんきん 検索

NOMURA

野村證券

横須賀支店

〒238-0008 横須賀市大滝町1-9

TEL 046-823-2550

◆◆ 野村證券を身近なアドバイザーとしてご利用下さい ◆◆

## 会員からの投稿文

### 浦賀道ぶらり散歩(連載五)

雷神社から浦賀道を南に進むと程なく左側に西庵グループ追浜店(以前の石笑)、そこを左折すると左手に法福寺が見えてくる。

本来の浦賀道は、関ノ入川(鷹取川の支流)に架かる西の橋(橋桁が現存)を渡って追浜駅前交差点へと進むのだが、暫くは和田山から浦郷(追浜)へ歩き、その遺跡を訪ねてみたい。

法福寺(日蓮宗)は、金谷大明寺末(衣笠)で境内に散在する五輪塔、宝篋印塔(ほうきょういんと)※1及び周辺には「やぐら」群等がたくさん存在していたと云う。これらの存在を考えると寺の創建は相当に古いこともわかる。

境内のやぐらのなかに、平田家墓所(※2)があり「やぐら」には、宝篋印塔を中心に多くの墓が祀られている。

以前は、寺の境内から天神山系の尾根道へ続く道があったが、「今は、尾根道など存在すらないし、そこに行くこともできない」と住職さんが言っていた。仕方なく傍示堂まで戻り、和田山の名残を求め、横須賀と横浜の市境界坂道を国道十六号線側から上り散策した。坂道の左側(横浜側)沿いは、マンションが建ち並んでいた。

道を上り切った付近は和田山砦跡(※3)のようだ。右手はこんもりと木々が生い茂っていた。地形的には法福寺の裏山だ。以前に和田山を追浜本町側から見渡すとその丘に多くの住宅が見えた。実際に歩くと和田山付近は宅地に造成さ

れ、閑素な住宅地であった。その一帯の崖はコンクリートで固められていた。

崖対策でコンクリートに覆われた崖には、数多くの横穴や、やぐらがあったと思われる。そこが和田山やぐら群跡(※4)のように思われた。

山頂と思われるところには「石舞台」と云われる自然に露出した凝灰岩があり、その「石舞台」の横に穿ち石室、正面には祭壇、その下は納骨する穴が掘られ、手の込んだ「やぐら」でかなりの人物(武士・豪族)の墳墓ではないかと思われるのが和田山墳墓跡(※5)遺跡である。

この和田山に存在した多くの遺跡は、開発優先のため十分な調査が行われたか疑問が残るところである。再発掘調査を待つしかないだろう。

また、史跡としての跡形を示す案内板がほしいものだ。和田山の遺跡を個人的に探すのは、想像力を働かせて探し周る必要がある。地域の歴史を学び継承し、後の時代に伝えていくためにも案内板設置を関係する行政自治体(教育委員会等)に切にお願い致したい感想でありました。

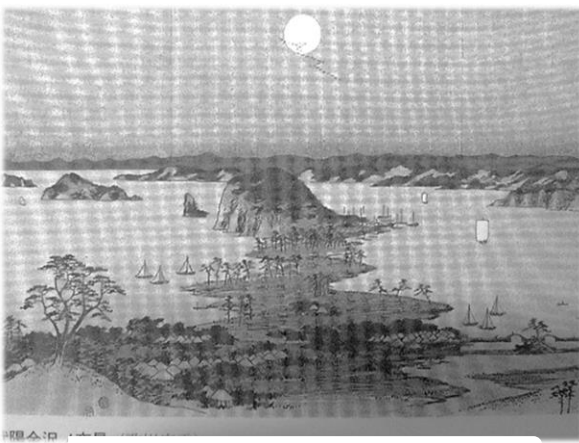
和田山地区も昭和五十年代頃の横須賀市による崖地対策工事が進み、あちらこちらに数多くあった「やぐら」はコンクリート壁に覆われ見られなくなってしまう。天神、室の木の周辺の山腹には、古墳時代の横穴とか、鎌倉時代以降の「やぐら」と思われるものとかが無数にあつたと伝えられている。

現風景を見て、開発によって埋もれてしまふ歴史の事情を思うと切なさを感じ和天山を下りた。途中、左折して県営室の木住宅を右

に見て狭い舗装道を進むと東瀬方崎町にでた。瀬方崎集落は、古くから天神山系の北側裾に平潟湾沿いに細長く、横浜南共済病院(※6)の付近まで続いていたのであろう。右手は平潟湾に面し長閑なところであつたと想像できる。連載三で記述した六浦の湊に出入りする交易船は、瀬方崎集落の沖、平潟湾の航路を通っていた。

海軍航空の拡大にともない、昭和十六年に平潟湾を埋め立てられた土地(面積約十一万平方メートル)に海軍航空技術廠工員養成所(※7)が建てられ、海軍の敷地となった。今の関東学院大学が建つ一帯です。

瀬方崎から平潟湾に浮かぶ野島を望むと、天神山系から射す初秋の夕日に染まっていた。



(※写真1) 野島の夕照

鳥帽子岩の雄姿が描かれた歌川広重の「野島の夕照(せきしやう)」が重なるて見えた。「野島の夕照」の浮世絵を観照す

ると、野島の瀬戸を基点に鳥帽子岩、夏島が湾に浮んでいるようだ。江戸湾には多くの帆船が夕日に白く映えている。野島の漁村の夕風の情景、静まり返った海辺を屋形船がすべるように出て行き、時の流れがゆつくりと夜にむかうさまを描き下ろしている。

「夕日さす 野島の浦にほす網のめならぶ里の あまの家々」※8めならぶとは、多くの(網の)目がならぶことで魚網がいくつも干してある風景(京極高門の和歌も情緒を醸している)。

瀬方崎に経(たち)洲崎と野島を眺めると野島は陸繋島のようにだ。

金沢の最後の八景「乙艦の帰帆」を想い浮べ、瀬方崎から野島や州崎を眺めると、水路、交通などのインフラが整備された現風景と浮世絵のその風景とが僅かな重なりが見とれた。

その広重の浮世絵には、陸繋の砂州を人々が歩き往来している。州の向うには、乙艦(野島水路の野島側の地名)という村落が見える。松籟の州の先(向こう側)に帰帆船(もうすぐ乙艦の湊、帆を一杯にし、碇をいれる頃合いの帰帆を描いている)。

高門も投錨の描写を和歌に著している。沖津舟 ほのかに見しも とる梶の乙艦の浦に かへる夕波

安藤(歌川)広重と京極兵庫高門の金沢八景は、二百年前の歴史に満ちた伝説的な景勝地として著し遺したこの二人の力が大きかったと思われる。

別れがたき想い、瀬方崎を後にし、天神通りに戻った。

ここは戦前、戦中に、海軍が室の木に軍艦に乗せる航空機の射出機(カタパルト)工場をつくった。長さが三十余だあ

り、運搬のためにこのような広い道路が必要であったためである。その道に沿って歩き、鷹取川に架かる神応橋※かんのうはし・神応はこの付近の昔に呼ばれていた地名で現在は存在しない)を渡ると追浜行政センターが建っているT地道路を左に曲がり、その先市営プール・体育館や芝生の野球グラウンドが左手にある。この付近あたりが古墳時代の雨乞祭祀が行われた「鉞切(なたぎり)祭祀遺跡」※8の跡である。

新聞紙上で「牛頭骨」遺跡が出土したと報道され、昭和二十三年と五十四年、五十八年と調査研究されている。古墳時代前・後期の出土品が多い謎めく遺跡である。古東海道の渡海地点、「郡衛」が置かれたのでは、この時代浦郷村は、何らかの中央政権と結びつきが感じられる。それが神に「牛頭骨」を捧げて「河伯の儀」で、この儀式は六四二年「雨乞いの行事」として大和政権の命令で全国的に行われた儀式の一つであり、他に「いるか」の頭を捧げたり、祭壇が造られたり、「大焚場」もあった。一部発掘されたが謎の多い遺跡である。

現在は、遺跡の大半は野球グラウンドや、道路の下に埋まっている。

ヘッピリ山という岩山が、横須賀スタジアム横浜DeNAベイスターズの三塁ベース付近まで平潟湾に突き出ていたと云われている。そのヘッピリ山の東側に蒲谷新田が開拓されていた。新田の南側に鉞切(なたぎり)湊、そして当時浦郷で最も人口が多く、漁業が盛んで深浦を凌ぐ、江戸湾内三港の一つでもあったと云われている。湊町を構成していた西鉞切と東鉞切を鉞切村と呼ばれ港町を構成していた。

海軍拡張の煽りをくつた村で、今は当時のような賑わいもなくヒソソリとしていた。鉞切の集落(現・浦郷四・五丁目)に入り、左折して深浦方面に少し進むと正禪寺(しょうぜんじ)が右手にあった。(追浜夏島通りと船越通りが交差する十字路を右折)

正禪寺(号金剛山)は、臨済宗建長寺派本尊 聖観音の禪宗のお寺である。

山門の脇に日清、日露両戦争で浦郷から出征し、明治三十七年の二〇三高地の戦いで戦死された「陸軍歩兵上等兵蒲谷萬蔵さん」の忠魂碑やその脇に陸軍工兵二等卒蒲谷某さんのお墓が並んでいる。

寺の創建は、室町幕府から戦国時代、小田原の北条早雲は鎌倉郡玉繩村に築いた城を拠点とし油壺の荒井城を落とし、三浦半島を手中に治めた年代であるが未だ政情が不安定で、寺を創建した年に里見氏が金沢に上陸し、鶴岡八幡宮を焼き払っているが

支配者も庶民もただ神仏に祈り頼る以外無かつた乱世の時代であった。寺の周辺には、「やぐら」「五輪塔」等が散在し、特殊な「集合墳墓」らしい形のものもある。寺の裏山は戦時中、高射機関銃陣地が造られた。

また、形跡はほとんどないが砦の跡があったものと推測できる。

鉞切村の鎮守であった「神明社」(※神明神社のごとく神明社は通称である。天照大御神を主祭神とし、伊勢神宮内宮を総本社とする神社である。)が権現山の麓に祀られている。

鉞切地区には、戦前五百戸以上の戸数あったが海軍航空廠、海軍航空隊の拡張により数回にわたり移転が強制され、村は数戸を除き全戸取り払われた。

戦後は、この権現山から日産の工場や追浜の町並みの景色を眺めに来る人も多いという。

また、小田原後北条時代の浦郷村領主になった朝倉能登守は、浦郷築島(追浜元みずほ銀行駐車場付近)の近くに陣屋を設けるとともに観音寺付近の山、尾根の一带に砦(観音寺城)を築いたとも伝えられている。この権現山もその一部であったとも伝えられている。特に千葉の里見氏と対抗する後北条時代は、房総里見氏に何度も上陸され攻め込まれている。

浦郷の榎戸から鉞切の間は、敵を監視する第一線であったと思われる。埋め立て前は観音寺から尾根は権現山を経て野球場まで連なりその先端が岩の格好から「ヘッピリ山」と呼ばれていた。

明治初期に蒲谷又右衛門が山を崩し「蒲谷新田」を造つたため、権現山から先は平地(現在と同じ風景)となったが、その新田もすべて海軍に接収され海軍横須賀航空隊・飛行場の用地となった。現在、一部は市民プール、テニスコート、野球グラウンドとなったが多くの日産の構内となっている。

鉞切(なたぎり)正禪寺から深浦に向けて進むと追浜(トネル)があった。

隋道をぬけるとすぐ橋状のものが現れた。これは、戦前海軍航空技術廠(空技廠)※10の科学部が「等速試験水槽」※11をさらに一〇〇メートル延長するために跨道橋(こうどうきょう)にしたものという。

隋道を出てすぐ右に曲り石段を登って行くと、官修墓地入口に向かう狭い石段状の道。追浜隋道ができる以前の浦郷(の旧道)を歩いて行くと、墓地の入口を表す石碑があった、右面に「官修墳墓の由来

のあらまし」が刻んであった。また、墓地に横須賀市制七十周年記念、横須賀風物百選「官修墓地」の説明板が(※史跡を尋ね歩く人々には本当にありがたいものです)あった。墓地は木々が生い茂り、閑散とした静けさで霜月(十一月)の小春の零れ日に落ち葉に埋もれそうに山茶花の赤い花が咲いていた。

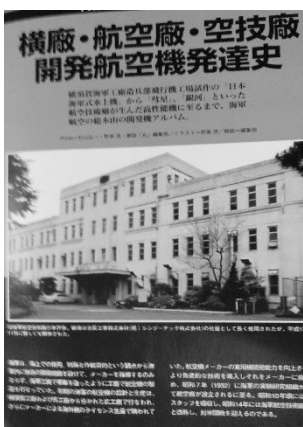
明治十年(一八七七)西南の役に従軍した傷病兵を「和歌浦丸」、「東海丸」に載せて東京に向かう途中、船内にコレラが発生したため、急遽、長浦湾に停船させ、箱崎に避病院を建設し患者を収容したが多くの死者をだした。身寄り不明と思われる四八名(※当時、身内のコレラ感染による恐怖から通れた社会的な風潮があったものと推測される。盛大な凱旋であったはずなのに余りにも惨さを感じる感染症である)などが対岸の黒崎の地に茶毘され埋葬された。多くは新撰旅団(※A)の兵士であった。大正二年当地が海軍航空隊の用地になったため現在地に移転された。

※A 明治十年(一八七七)に起きた西南戦争の際、官軍側が会津藩を中心に東北、北陸などの諸藩士族を警備隊として徴募し、戦地に派遣した軍団、西南戦争の後半(明治十年七月二十から宮崎から鹿児島での戦いに参戦した。尚、この官修墓地に会津藩の人はいません。当時、朝敵された会津とおとしいれた薩長の確執が根強く残っていた時代背景もある。

官修墓地を下りて、深浦湾方へ進むと交差点があった。右方向へ進むと深浦町の郵便局前の通り、独園寺(※建長寺派)が右手奥にあった。さらに深浦隋道をぬけると東町通りに通ずる。

交差点「青」信号を左に進み深浦工業団地方面に進み、現在も残る海軍の遺構などを訪ね行く。

深浦循環バス（JR田浦駅～京急追浜駅循環）が私を追い抜いていった。程なくして海軍航空技術廠があった付近に着いた。現在は海軍航空技術廠の建物は壊されていた。凄く残念だったが横須賀市教育委員会が設置したものとと思われる「文化財説明」で「海軍航空技術廠本庁舎跡地」（※10）（※写真2）にガイド板があった。この付近は戦時中、海軍の航空機に関する研究所や工場などが建ち並んでいた。戦後はその流れで深浦工業団地と呼ばれた工場地帯として発展した。その傍に昭和天皇行幸記念碑がひっそりとたたずんでいた。その碑の裏に昭和十三年八月十一日に「海軍航空技術廠本庁舎訪問、見学されと記念碑設立の由来が記載されていた。由来は旧字体で読むにはむずかし。冒頭、「抗日支那膺懲ノ聖戦」(伝々々)。膺懲とは征伐するという意味。日中戦争の最中、国威発揚の感を表しているもので、当時の技術廠の偉い人が設立したものであろう。



(※写真2) 海軍航空技術廠本庁舎

年の暮れ「支部だより連載五」は、このあたりで終わります。会員の皆様も新たな門出、令和五年の新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

次号(連載六)は新春の浦郷を散策します。貝山緑地、海軍航空基地などの海軍遺構を周って見たいと思います。また、明治時代の俯瞰図(※写真3)を観ると烏帽子岩と夏島の水路から平潟湾に入る交易船にとつて烏帽子岩は、航海の「みお」であったに違いない。そして、夏島の明治憲法発祥の地など等、そして、田川家の浦郷、船越物語、盛りだくさんです。お楽しみにして下さい。 竹船



(※写真3) 夏島、烏帽子岩、追濱の鳥瞰

- ※1 宝篋印塔とは「宝篋印塔陀羅尼(呪文)」に収めた供養塔をいう。
- ※2 やぐらの中に宝篋印塔を中心として数多くの墓が祭られている集合墳墓で鎌倉時代より古い墓であらうと想像できる。
- ※3 法福寺墓地に続く墓地を「だいざわ」と云う。その北側が横須賀と横浜の境界とんっている尾根道、今は境界道路だ。尾根道は宅地開発前、「平場」、「切岸」とがあり、三段の段状に人工的な形状であった。その形状が平潟湾に続く室の木から鷹取山の尾根に存在していた。その中心的位置にあるのが「だいざわ」で山腹には「集合墳墓」があることから付近一体は中世の葬ではなかったかと考える人もいる。
- ※4 和田山やぐら群  
かつて追浜本町から和田山の周辺の山を見渡すと「やぐら」が数多く見られたという。天神、室の木に

かけて山腹にも無数の横穴があいていた。この「やぐら」や横穴についての歴史的背景など詳しくは調べてない。

- ※5 和田山墳墓跡  
小さな石舞台のような墳墓で、石舞台の面積は縦が六メートル、横は四メートル位で、自然に露出した凝灰岩を穿ち石室のように造られたものがあるが、正面に祭壇があり、祭壇の石は奇麗に磨かれている。祭壇の下には納骨する穴がある。
- ※6 横浜南共済病院  
横浜南共済病院の前身は、昭和七年十月二十日に横須賀海軍共済組合病院が浦郷に分院を開設したのが始まりであった。そして、昭和十六年六月に浦郷分院が現在病院のある六浦に移転され、昭和十六年四月十六日追浜海軍共済組合病院として分離独立された。今、開院してから九十年を過ぎた。歴史を振り返ると戦前は横須賀海軍航空隊や航空技術廠とともに歩んだ道のりであったと思われます。当時の航空技術廠は、世界最先端の研究や技術をもった組織であった。追浜浦郷の本廠と釜利谷支廠(横浜市大や東急車輛製造がある地域)の職員、工員合わせて三万人余りの医療を担っていた。

昭和七年四月に航空廠の見習科三十八人が海軍工廠職工教習所に入所した。九年には教習所は浦郷の飛行機部のある近くに移り、(現在は、岡村製作所)十四年に航空廠が航空技術廠に、教習所も工員養成所に改称され、十六年に横浜市金沢六浦町(現関東学院敷地)に設立した。

- ※7 海軍航空技術廠工員養成所  
昭和七年四月に航空廠の見習科三十八人が海軍工廠職工教習所に入所した。九年には教習所は浦郷の飛行機部のある近くに移り、(現在は、岡村製作所)十四年に航空廠が航空技術廠に、教習所も工員養成所に改称され、十六年に横浜市金沢六浦町(現関東学院敷地)に設立した。

関東学院百年史によると、養成所所には、校舎講堂(体育館兼)実習工場(旋盤百台)、製図教室(製図版机百人分)、寄宿舎があった。この施設を譲り受け使用することができたと伝えている。また、そこには、戦後、我国の工業技術の発展を支えた逸材が在籍していた。代表的な方は、元ソニー会長の森田昭夫氏、国産ジェットエンジン開発の第一人者永野治氏、新幹線車体開発の三木忠直氏、世界で最初に内視鏡を開

発した深海正治氏などの方々である。

- ※8 鉞切祭祀遺跡  
遺跡は、古墳時代前〜後期の出土品が多く、祭祀に関する高杯等の土器や、土製玉類、滑石製模造品類が多数出土した他墨書土器や製塩か製鉄に關係していると思われる遺跡も出土している。
- ※9 玉繩城  
玉繩は小田原北条早雲(後北条)が西相模(小田原)に進出し、関東征派を目前に北条早雲の北条は、東相模の三浦義同が荒井城に籠り長期戦となった。相模三浦の主筋である武蔵野の扇谷上杉家当主上杉朝興が荒井城に援軍を送る際、後北条は挟撃になることを避けるために三浦半島の付け根にあたる相模国鎌倉郡の玉繩村に築いた城で御北条の東相模の三浦に対する城であった。三浦氏滅亡後は、安房里見氏に対する押さえとして城であった。また、この当時の三浦の領主が追浜に陣屋を置いた朝倉能登守であった。

※10 海軍航空技術廠(昭和七年四月一日〜二十年八月三十日)  
海軍航空技術廠略称「空技廠」のちに第一海軍技術廠といわれた。日本海軍航空技術の実験研究機関であり、横須賀海軍航空隊に隣接した浦郷地区に設立された。その任務は、海軍航空機や発動機(エンジン)、航空機関連器材の設計、試作、実験、調査、審査を担当するとともに、「必要に応じ航空兵器の造修購買を掌る」こともあった。なお、空技廠が担当した実験や調査、審査には民間航空機製造会社で作製した航空機や航空機関連器材の実験、調査、審査も含まれていた。そのため空技廠や昭和十六年四月に開設された空技廠支廠(当時、横浜市磯子区釜利谷・横浜私大、東急車輛、釜利谷中学校など)の周辺には、多数の航空機関連企業が進出していた。

連合艦隊司令官山本五十六大將の航空機重視の姿勢から海軍は航空機の技術革新を進めた。その担い手が空技廠であった。

※11 等速試験水槽(空技廠科学部)



空技廠科学部は航空機材料の基本研究、調査、航空兵器の試験及び審査を行った。特に、風洞設備実験及び水槽試験では科学部が中心的な役割を担い、既製航空機の性能向上、新型機の開発に大きな役割を果たした。風洞設備(説明省略)と並んで重要視されたのが水槽試験である。特に、水上機の水上性能や離着水性能などを計測するための試験で、科学部は「等速試験水槽」「加速試験水槽」「浅海面水槽」の三つの水槽を有していた。

等速試験水槽は、昭和九年(一九三四年)に海防義会から献納されたもので、全長二四〇メートル、幅五メートル、深さ三メートルで世界一流の部類に属するものだった。前記述したように跨道橋(こどうきよう)は、「等速試験水槽」をさらに延長させた遺構であります。現在浦郷町五丁目の株式会社イシカワ製作所の西側の追浜階道に続いて存在する。ちなみに、「浅海面水槽」は、本来水上機の旋回性能を計測するためのものであったが、海軍が真珠湾攻撃において使用された。「浅海面航空魚雷」のほか、戦闘機「紫電改」など海軍機の層流翼開発、四発陸上攻撃機(爆撃機の主翼とエンジンセルエンジンの覆い)の研究、ロケット戦闘機(秋水)の実験用グライダーの製作と風洞実験など、海軍航空機や航空兵器の開発において空技廠科学部の果たした役割は無視できないものがある。



## 金時山登山

箱根仙石原すすきの原が金色に色づき始めたころの十月二十二日(土)、箱根山火山群(※1)カルデラ芦ノ湖の外輪山の一峰として知られ、金太郎伝説の残る金時山へ登山に行ってみました。

朝七時、逗子駅改札口で待ち合わせ、JR横須賀線、大船で東海道線に乗り換え小田原駅。改札を出て箱根登山鉄道で箱根湯元駅下車しました。

湯元駅の近くの箱根登山バス停は、多くの登山者やハイカーで、すでに長い列が出来ていました。

乙女峠往バスに乗りし、バスは宮ノ下で国道一号線別れ、箱根の裏街道へ車窓から明神ヶ岳を望み、眼下遙かに早川の流れ、まさに箱根の山は天下の険、万丈の山、千仞の谷の様相がヒタタリのバスからの眺めでした。

金時山登山バス停に九時半ごろ到着しました。

早速、登山を開始し北に延びる舗装道路を十分ほど歩き、道標にしたがって登山道に入る。笹の茂る道を登って行くと金時山と名神ヶ岳の分岐点である矢倉沢峠にでた。ウグイス茶屋(閉っていた、休業かも?)のあるところで休息をとり、前方に見える金時山をめざして笹原の尾根道を上って行く。やがて、大岩が現れその大岩の上から、白い水蒸気が立ち上がる箱根大涌谷、仙石原スキの原、桃源郷や芦ノ湖も見える。箱根の山々の絶景も素晴らしい眺めだった。

公時神社への分岐点を通過すれば頂上まであと少し。急な岩場もある最後の難所を過ぎれば金時山の頂上だ。快

晴、目の前に富士の広大な裾野と冠雪頂いた富士山。登った人のみ頂ける素晴らしい眺望です。

強風の頂上には、登山者達が岩陰に思い全に風を避け昼食していました。雷鳴が富士の方から轟き、富士山と箱根の山のパラダイスを一度に味わい、「天下の秀峰・金時山」(一、二二二m・静岡県小山町)の大きな立て看板と富士山をバックに記念写真を撮りました。頂上には二軒の茶屋(※2)があり、店は客でいっぱい返し、暖かい喉の渇きを覚えたがガスコンロが強風で使用できず温かいコーヒーお預けとなりました。冷たいオニギリで昼食、手製のお新香と果物(グレープフルーツ)が美味しかったです。

強風に寒さを感じたため下山としました。同じ道を途中まで下り、金太郎伝説の公時神社(※3)への道を取りました。途中、巨石に支え木のようなものが何本かで、その巨石を支えているように見えます。金太郎伝説で金太郎が住んでいたといふ「金時宿り石」でした。

また、通過して振り返ると丸い苔むす岩、これこそが金太郎が手毬したと云われる手毬石、他にも蹴落とし岩などもありました。程なく公時神社に着きました。早速、参拝を済ませ御朱印を戴きました。

晴天に恵まれた秋の一日を過ごすことができました。

バスに揺られうたた寝。「マサカリかつ古ハイシイドウドウ、ハイドウドウ、ウ、あしがらやまの やまおくで けものあつめて すもうのけいこ ハッケヨイノコッタヨイ ハッケヨイノコッタヨイ」で

目が覚め、箱根湯元バス停に着きました。湯元駅商店街を散策、土産に温泉饅頭を買い、川のせせらぎに誘われるように路地を歩き、着いたところが「手作りビール」の店の前、溪流早川の流れを吹き渡る爽やかな秋の風、クラストビールで渴いた喉をうるおし、小田原始発JRで帰途につきました。ここで二句

金太郎 富士の裾ので 鬼退治

横須賀支部会員 竹舟

※1 金時山は箱根山の外輪山の最高峰(標高一、二二三m)で、今から四十年前の大噴火によって誕生したものです。頂上から富士山の眺望が素晴らしく、眼下には巨大なカルデラ湖である芦ノ湖が一望できます。

※2 金時娘の(小見山妙子さん)父、正さんは富士山の強力で抜群の力持ちと云われ、北アルプスの白馬岳の山頂に二〇〇キ(約五十五貫)の風景指示盤を背負いあげたという。富士山の強力の名誉と足柄山の金太郎の再現を自分に言い聞かせ決死の覚悟で遣り遂げたわけです。交友のあった作家新田次郎さんは、その後コミさんをモデルに「強力伝」を発表し「直木賞」を受章しました。遺児の妙子さんは、現在も金時山頂で父が建てた山小屋を守り金時娘の愛称で登山客に親しまれています。

※3 公時神社は、箱根霊山の一つ金時山、東の麓に鎮座するお社であり、金太郎伝説で有名な坂田公時命がお祀りされています。

御祭神の坂田公時命は、平安時代中期、源頼光の四天王の一人として活躍し、酒呑童子退治にも同行したと伝えられる勇猛な武将であります。その武勇は

「今昔物語集」、古今著集によく記載されていますが、一般には、幼名の「金太郎」で知られ、憧形で鉞を持ち、金の字の腹がけ姿で熊に跨る金太郎は、昔話や童謡などで広く親しまれています。

#### 丹沢山系は伊豆孤島

今から数千年万前のこと、日本列島は現在の位置には存在していませんでした。日本を形成する島々は、ユーラシア大陸の東端に海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む海溝において、海底に堆積していた地層が陸側プレートの縁に剥ぎ取られて固まった付加体なのです。えー日本列島は海の堆積物(付加体)?なの、と思われるかもしれませんが。現在の日本列島の地体構造の約七割が、この付加体とその上に積み上がった堆積岩から成りたつています。日本列島に残る最も古い地帯構造には五億年前の岩石、地層(※茨城県日立市から常陸太田市にかけての山地で五億三〇〇〇万年前、岐阜県高山市の化石が見つかつた地層は四億五〇〇〇万年前)もあります。このように大陸の東の縁辺部にあつた日本列島は、五億年前頃から、地球の巨大なエネルギーに翻弄されながら成長を続けました。現在も進行形の列島なのです。

約三〇〇〇万年前、ユーラシア大陸の東端に亀裂が入り、大陸から広がり始め、約二五〇〇万年前頃から海水が流れ込み始めたと考えられています。日本の誕生です。約一五〇〇万年前頃に日本海は形成を終りました。この同じ頃に、日本列島の現本州全体は、ユーラシアプレートの上にあります。その日本列島(本州)に対して南東の方向からフィリピン海プレート上の海底火山や火

山島の列、伊豆弧(こ)が次々に衝突し始めました。

一三〇〇万年前までには巨摩山脈(※A南アルプスの東側に位置する山脈で早川と釜無川と本流富士川との間に位置する山脈)の櫛型山(※B 巨摩山脈の代表する山)となる地塊(※C 周囲から断裂し、分れた地殻の一部を地塊とい)がぶつかり、九〇〇万年前には御坂山地(みさか)、五〇〇万年前丹沢山地や大山山系となる地塊が次々に衝突、やがて一〇〇万年前には、伊豆が衝突し、伊豆半島のかたちが創られました。

伊豆の衝突の結果、中央構造線が「ハの字」に日本列島が北西方向に押され、曲つたものだと考えられています。驚くのは伊豆弧の移動は、今尚続いているING(進行形)なのであります。

フォッサマグナは本州の、ど真中を真二つに切り離しました。糸魚川―静岡構造線は、フォッサマグナの西側(古い地層)の断層です。東側(古い地層)柏崎―千葉構造線(仮定・東側の構造線はハッキリとしていない)で、その間が新しい地層のフォッサマグナです。もともとは日本列島を形成する地層の大部分は海洋プレートがユーラシア大陸に沈み込むときにできた付加体(海洋プレート上の堆積物)です。その古い地層上にフィリピン海プレート上の新しい地殻(火山や島など地塊)によつて形成されたのが、現在我々の住む関東の地帯構造(プレートテクトニクス)(※D 地球全面を覆う十数枚の厚さ数十キロメートルほどの岩盤、即ちプレートがお互いに動くことで大陸移動などが引き起こされるといふ地球科学において一大転換をもたらした理論)なのです。

秩父地質山系や奥多摩山系の地層や岩石は三億年前から六五〇〇万年前にかけて遠く南洋で噴出した海底火山の噴出物、サンゴ礁などが堆積したものでできています。約一五〇〇万年前までは海(名を秩父湾)であつた。その証は海底火山噴出堆積物やサンゴ礁、海洋生物の殻、骨などが海底に堆積し隆起してできたものと考えられています。明治時代、秩父は日本の近代地質学の先駆け、ジオパークだつたのです。

五〇〇万年前に丹沢・大山山地を日本列島に運び込んだ地球の途轍(とてつ)もないエネルギーは広大無辺。人の力では如何ともしがたいものだと美しい大山山頂から初夏の丹沢、奥多摩、秩父の山並を望み、地球の息遣いを感じました。

三浦半島の誕生についての夜話を少し。三浦半島は、伊豆や同じ神奈川県内箱根の山々とは少し異なる半島地質となつています。

また、房総、伊豆半島に比べると小さい半島ですが房総半島と同じ地質構造となつております。伊豆半島の付け根にはこれまた小さな真鶴半島があります。同じ神奈川県兄弟半島は性格(生い立ち)は全く別人です。

三浦半島や房総半島は、二〇〇〇万年前から一五〇〇万年前の太古の時代、太平洋の深海底の太平洋プレートの上以降り積もつた堆積物に由来します。堆積した地層が太平洋プレートに沿つて北に移動し、太平洋プレートが海溝において大陸プレートの下に沈み込む際に生じる運動エネルギーで徐々に隆起、堆積物は剥離して積みさがり(このような地質構造を付加体という)、今から約二〇〇〇

万年〜一五〇〇万年前の海底に堆積した葉山層群と呼ばれる地層や八二〇万年前から三五〇万年前に堆積した三浦層群、相模層群は四〇万年前〜一〇万年前に堆積しています。何度か上下運動を起こして数十万年前に現在の半島の原型が作られ、海底から隆起して陸地になつた。三浦半島は断層が多い衣笠、武山断層などの五つの活断層があるのも分る気がします。活断層地震、怖いですよ。

横須賀市平作川の支流のひとつ、越水川の左岸からは枕状溶岩(※E 南のフィリピン海プレートに含まれる岩石で、プレートテクトニクスの理論を実証する証拠となつている約五〇〇〇万年前に海底で噴出した玄武岩質の溶岩が急激に冷え固まつて作られたもの)が発見されています。

フィリピン海プレートにのつて移動してきた伊豆半島が日本列島に衝突したエネルギーによつて三浦半島は時計回りに回転して現在の位置となりました。隆起は現在も続いております。枕状溶岩は、四千万年をかけてフィリピン海プレートに乗つて旅し三浦半島で一番古い岩石で横須賀市の天然記念物に指定されています。

地球上に人類(猿人)が誕生したのは今から約四〇〇万年前のことですが日本列島に人が住み始めたのは氷河期「原新世」の約二十万年前と考えられています。三浦半島では二万五千年ほどの前迄、人類の生活の跡が確認されています。(横須賀市長井地区等)この時代は狩猟や採集による生産活動が行われていたがまだ土器や弓矢の使用もなく先

土器時代と呼ばれております。

最後に「人間五十年下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。一度生を得て滅せぬ者のあるべきか……」。時は戦国時代、織田信長がこの幸若舞「敦盛（あつもり）」の一節を吟じて舞い、桶狭間の決戦に臨んだ。当時の寿命は五十年、信長が本能寺の変で亡くなったのも四九歳、ではこの「人間五十年」とはなにを意味するかは「下天」にあります。

下天とは仏教における天上世界を欲望の度合いに応じて六段階に分けた六欲天（ろくよくてん）の最下位を差し、その世界では一昼夜が人間世界の五〇年に相当します。彼らの生涯は九二・五万年という途方もない長さになります。信長の考えを今知る余地もないが儂（はかなく）く夢幻のごとく「下天」の世界を望んで吟じ舞ったかも知れません。

仏の世界や地球の歴史と、「人間五十年」その悠久の時間感覚を比べる尺度はないような気がいたしました。

地球の計り知ることのできない力で現在も伊豆弧が年間数センチずつ日本列島に近づく現象は世界唯一であります。そして現在進行形であります。また、三浦半島も隆起を続けています。

厚顔しくも述べてきましたが会員の皆様地震は必ず起きます。そして、日本列島が海底に沈むこともありませぬし、天上世界、「下天」に住所変更もできません。地球からいただいた大地（現住所）で頑張ってください。新春お慶び申し上げます。令和五年正月

横須賀支部会員 竹舟

### 神奈川県防災訓練

十月十六日(日)、神奈川県・葉山町合同総合防災訓練(ビッグレスキュー2023)が実施され、中央会場の葉山町南郷上ノ山公園には当支部から池田防災安全委員長を含め三名が、また葉山港会場には濱田支部長が参加した(合計4名)。

今回の訓練は大規模震災発生時に自衛隊、在日米軍、医療関係機関等との連携強化を図り、自主防災組織を中心とした地域防災力の向上と防災意識の高揚を図るものであった。

中央会場では、神奈川県隊友会のブースが設けられ、隊友会の防災に関する活動の紹介、三角巾を使った初期の傷害対応についての説明と実技演習等が実施された。

このブースには親子連れ等が訪れ、三角巾の活用について珍しそうに会員の話を聞くとともに、自分でも三角巾を手にして実技演習に参加していた。

こうした活動を通じて、防災についての知識や理解を深めるとともに自衛隊に対する理解の一層向上に繋がることのできるものと考えます。

葉山港会場では、津波対策訓練としてドローンによる情報収集訓練、素性バイク、船舶による救出救助訓練、車両、船舶による物資輸送訓練が行われた。

実施された訓練のうち情報収集については、大小各種の空中ドローンによる空中からの情報収集とともに、海中における情報収集のため海中ドローンが活用された。いずれも、極めて明瞭精細な画像情報をリアルタイムに入手できて、その有用性の高さを実感することができた。

また、水上バイクによる要救助者の救出訓練では、動きが非常に迅速機敏で、かつ小回りも可能なため船舶の侵入が困難な狭い箇所においても十分活躍可能なことがよく理解できた。

救出救助における技術も、日進月歩であることを目の当たりにできた極めて貴重な訓練プログラムであった。

中央会場、葉山港会場等には、黒岩神奈川県知事や陸上自衛隊第一師団長も来場し、訓練状況を視察していた。



### ゴルフ同好会コンペ

令和4年十一月九日、第二十九回隊友会横須賀支部ゴルフコンペを南総ヒルズカントリークラブで行いました。秋晴れの絶好のコンディションの中、和気あいあいの中にも、熱気あるプレイで見事鈴木弘蔵氏がグロス 95、H/C 24、NET 707で優勝しました。

参加者の皆様お疲れさまでした。怪我人、コロナ感染者もなく無事プレイできましたことを感謝いたします。

なお、次回の第三十回大会は令和五年三月頃に予定してありますが、この大会は第三十回記念大会のため、これまで隊友会横須賀支部ゴルフコンペに参加した方に限らせて頂きます。また、「おしらせ」等でご案内いたします。

ゴルフ同好会幹事 松浦和彦



住宅リフォーム工事なら小工事でもお気軽に

## (株)オノシマホーム

# TEL046-833-2968

横須賀市森崎1-2-21 エザース北久里浜3階  
大工、外壁塗装、水廻り、内装、屋根、外構 他  
久里浜通信学校総務部・教導隊OB  
鹿児島生、愛知出身、陸上自衛隊生徒23期卒

## 試験艦あすか体験航海

去る十月二十九日(土)、海上自衛隊の試験艦「あすか」による体験航海が午前、午後それぞれ吉倉岸壁から猿島沖まで一時間の航海であったが実施された。この体験航海は二十九日(土)と三十日(日)と開催されたが、隊友会は県本部募集分も含め八十八名の会員が二十九日に参加したものである。

当日は秋晴れで天気にも恵まれており、横須賀在住の会員のみならず、都内、湘南方面在住の会員も集まり、久しぶりの体験航海を艦橋や甲板で思い思いに楽しんだ。

この日は国際観艦式のフリートウィーク期間中の基地一般公開中でもあり、基地の一般公開とこの体験航海の両方を楽しんだ会員もおられた。

海自出身の会員はこの体験航海を通じて往時の勤務を懐かしみ、また特別会員のよう自衛隊出身でない会員は、海上自衛隊員が洋上でどのような訓練や作業を行っているかについて、若干ながら実地に知識を習得できたものと言える。

コロナ禍は未だ収束とは言えないものの、世の中は徐々にウィズコロナの雰囲気になっており、今後、このようなイベントを通じて、自衛隊の現状を实地に紹介するとともに会員の魅力などを発信できればと思う次第である。

矢木事務局長



## 事務局だより

各項目におけるお名前については順不同、敬称略、また各イベントにつきましては新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止、実施要領の大幅変更があり得ます。

### ☆ 新入会員紹介

次の方が新たに入会されました(令和四年九月～令和四年十二月)

### ○ 正会員

小野寺 武志陸(海)、菊地 康治(海)、鶴巻 伸秀海(海)、渡邊 真(海)、小林 大祐海(海)、米田 誠(海)、山田 久央海(海)、菅 信男(海)

### ○ 特別会員

古林 タツ子(個)、宇野 光秀(個)

### ☆ 物故者(令和四年十月以降判明分)

次の方々がご逝去されたとの報をいただきました。心からご冥福をお祈りいたします。

### ○ 正会員

草薙六郎左門(海)、宍戸 樹雄(海)、時政 眞一(海)、鴛田 為雄(陸)、水上 功(海)、柏村 静夫(海)、赤沼 康夫(陸)、遠島政五郎(海)、塚島 脩(陸)

### ○ 特別会員

根津 良蔵(個)

### ☆ 試験艦あすか体験航海

十月二十九日(土)午前及び午後各一時間の体験航海を実施しました。午前十が二十八名、午後は六十名が参加しました。

今回の体験航海は急に決まったことで、メールアドレス登録会員と案内の時期が間に合った隊友新聞手配会員を中

心に案内状を送付いたしました。メールアドレスを登録されている方にはタイムリーに各種案内が可能ですので、メールアドレス未登録の方は是非とも登録をお願いいたします。

横須賀支部事務局連絡先

☎ 〇四六〇八二七〇二五五九

メールアドレスは

[tys-05@nifty.com](mailto:tys-05@nifty.com) です

### ☆ 『令和四年秋 叙勲受章者紹介』

次の会員の方々が受章されました。栄えあるご受勲をお祝いし、謹んでお慶び申し上げます。(令和四年十一月三日発令)

### ○ 瑞宝中綬章

宮浦 弘兒(海)

### ○ 瑞宝小綬章

元海自 舞鶴地方総監

### ○ 瑞宝双光章

元海自 横須賀教育隊司令

### ○ 瑞宝双光章

(以下、危険業務従事者)

### ○ 瑞宝双光章

鬼塚 安次(海)

### ○ 瑞宝双光章

元海自 横須賀警備隊

### ○ 瑞宝双光章

工藤 守(海)

### ○ 瑞宝双光章

元海自 弾薬整備補給所

### ○ 瑞宝双光章

外塚 勉(海)

### ○ 瑞宝双光章

元海自 誘導武器教育訓練隊

### ○ 瑞宝双光章

三谷 昌彦(海)

### ○ 瑞宝双光章

元海自 通信学校

### ○ 瑞宝双光章

大塚 功(海)

### ○ 瑞宝双光章

澤 庄治郎(海)

### ○ 瑞宝双光章

元海自 潜水艦教育訓練分遣

### ○ 瑞宝双光章

元海自 第二潜水隊群司令部